

日本刀の鍛錬見学会開催します



玉鋼

日本刀は富士、桜とならび日本を象徴する我が国が世界に誇る鉄の文化です。その日本刀は古来武士の魂であり大和心を具現化したものであり入魂の芸術と言われています。日本刀は折れず、曲がらず、良く切れると言う武器本来の機能を備えているのみならず姿の良さ、**刃紋**、**沸(にえ)**、**匂い(におい)**、**映り**、**や地肌**の不思議な美しさなど、神秘的とも言える荘厳な美をもっています。これは日本刀の1000年の歴史のなかで多種多様に变化しています、この辺が、偽物を見分ける鑑定の見所となります。日本刀は和鋼の特質を最大限活用し表現した結果生まれたものなのです。

日本刀の製作工程公開

勉強者募集中

実施内容

開催日時は、**2010年10月24日(日)午前10時**より**竹花繁久日本刀鍛錬所**にて実施します。集合場所は、午前9時45分に東武東上線森林公園駅集合。10時鍛錬所到着、刀匠挨拶などオリエンテーリング実施。**10時30分から12時まで鍛錬**をじっくり鑑賞いただきます。12時30分から1時30分まで試斬を体験していただきます。此の間に爾比久良玉鋼会より会の活動内容について紹介・日本刀の鑑定要領について説明、日本刀を少し勉強して見たい方を募集します、会費など一切ありません、年数回案内のメールが行く程度で、あとは自己本位となります。詳しくは事務局へ・

2時～寿司処「**神田**」にて**昼食・飲食・歓談**にて刀匠と質疑応答を実施いたします。**当日費用1人4000円**。2次会は希望で



鑑定とは、良い刀悪い刀を見分けることができるようになる手法！

新撰組の近藤勇は偽物の虎徹をもって池田屋に切り込み豪壮な薩摩刀と刃を交えましたが、たまたま上手の刀工の刀であったので戦果をあげることが出来ました。古来上級武士のたしなみとして鑑定眼は必須でした。

「**鑑定**」とは、一般的には、刀剣の善し悪しを判別する意味あい用いられ、物の真偽を見極める手段としての鑑識と同意語的に使われています。日本刀を鑑賞し鑑識

することは日本刀発生よりから始まったと想像されますが、特に「鑑定」は室町時代末期頃の豊臣秀吉に仕えた本阿弥光徳の鑑識から始まったとも言われています。本阿弥家は時の將軍家や大名家に仕え、江戸時代には、幕府が認める折り紙を発行していました。その長い間に培われた刀工の銘ぶりや作風の特徴が集大成され、鑑定の見所となっています。明治以降はそのような制度はなくなりましたが、多くの鑑識者や愛刀家によって日本刀は愛眼され続け、少しずつ進歩を続け今日に至っています。まず日本刀を鑑定する基本的な所作は、在銘であれば、銘の真偽をし、さらに国や流派から、時代にあった作柄や作者の作風に合致するかなどを規範として判断されます。無名の場合は、姿を見て原型の状態か、磨り上げられていれば基の状態を想定して、**古刀期**のものか**新刀期**がある程度の時代選択をして、次に**ライト**の光で地肌を看取して、**刃文**から**国や流派・作者**を絞り込みながら、より妥当性がある流派や作者を極めていきます。(協会HPより抜粋)

ポイント・新刀・古刀の見分けだけでも身につけば、あとはシステムチックに組み立てられていますので、**判者が誘導してくれます**、**当日はこの辺を中心に解説させていただきます。**



事務局・爾比久良刀剣玉鋼刃物を愛好する会主催

e-mail yfb12287@nifty.com

鶴ヶ島市上広谷8-4-112 竹花充章 090-1434-2477 (tel 午前中のみ)